



2025年3月期 第2四半期（中間期）決算短信〔日本基準〕（連結）

2024年11月11日

上場会社名 株式会社ロイヤルホテル 上場取引所 東
 コード番号 9713 URL <https://www.rihga.co.jp/>
 代表者（役職名） 代表取締役社長（氏名） 植田 文一
 問合せ先責任者（役職名） 執行役員財務部長（氏名） 坊傳 康真 TEL 06-6448-1121
 半期報告書提出予定日 2024年11月11日 配当支払開始予定日 —
 決算補足説明資料作成の有無 : 無
 決算説明会開催の有無 : 無

（百万円未満切捨て）

1. 2025年3月期第2四半期（中間期）の連結業績（2024年4月1日～2024年9月30日）

（1）連結経営成績（累計）

（%表示は、対前年中間期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する中間純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2025年3月期中間期	10,073	6.8	△339	—	△308	—	△473	—
2024年3月期中間期	9,435	△15.4	△35	—	△7	—	△80	—

（注）包括利益 2025年3月期中間期 △462百万円（—%） 2024年3月期中間期 △53百万円（—%）

	1株当たり 中間純利益	潜在株式調整後 1株当たり 中間純利益
2025年3月期中間期	円 銭 △31.00	円 銭 —
2024年3月期中間期	△5.27	—

（2）連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
2025年3月期中間期	百万円 31,220	百万円 19,281	% 61.8
2024年3月期	31,568	19,877	63.0

（参考）自己資本 2025年3月期中間期 19,281百万円 2024年3月期 19,877百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 5.00	円 銭 5.00
2025年3月期	—	0.00	—	—	—
2025年3月期（予想）	—	—	—	5.00	5.00

（注）直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

上記「配当の状況」は、普通株式に係る配当の状況です。当社が発行する普通株式と権利関係の異なる種類株式（非上場）の配当の状況については、後述の「種類株式の配当の状況」をご覧ください。

3. 2025年3月期の連結業績予想（2024年4月1日～2025年3月31日）

（%表示は、対前期増減率）

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	23,100	11.8	700	25.5	300	△49.0	100	△88.9	6.55

（注）直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 無

2025年3月期通期連結業績予想につきましては、現時点では2024年5月13日に公表した業績予想に変更はありませんが、本日、公表いたしました「株式会社芝パークホテルとの資本業務提携契約締結および子会社化に関するお知らせ」による影響額は精査中であり、加えて今後の業績推移等も慎重に検討した上で、修正が必要な場合には速やかに公表いたします。

※ 注記事項

- (1) 当中間期における連結範囲の重要な変更 : 無
- (2) 中間連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
 - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
 - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
 - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2025年3月期中間期	15,303,369株	2024年3月期	15,303,369株
② 期末自己株式数	2025年3月期中間期	30,106株	2024年3月期	29,900株
③ 期中平均株式数（中間期）	2025年3月期中間期	15,273,389株	2024年3月期中間期	15,273,640株

※ 第2四半期（中間期）決算短信は公認会計士又は監査法人のレビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

業績予想につきましては、現時点で入手可能な情報に基づき当社グループで判断したものです。予想には様々な不確定要素が内在しており、実際の業績はこれらの予想数値と異なる場合があります。

種類株式の配当の状況

普通株式と権利関係の異なる種類株式に係る1株当たり配当金の内訳は以下のとおりです。

A種優先株式	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
2024年3月期	円 銭 —	円 銭 0.00	円 銭 —	円 銭 449.50	円 銭 449.50
2025年3月期	—	0.00			
2025年3月期(予想)			—	501.50	501.50

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	3
2. 中間連結財務諸表及び主な注記	4
(1) 中間連結貸借対照表	4
(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書	6
中間連結損益計算書	6
中間連結包括利益計算書	7
(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項	8
(継続企業の前提に関する注記)	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)	8
(セグメント情報等の注記)	8
(収益認識関係)	8
(重要な後発事象)	9
3. その他	10
連結 部門別売上	10

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する説明

当中間連結会計期間におけるわが国経済は、経済活動の正常化や雇用・所得環境の改善により消費動向が高まり、緩やかな回復傾向にある一方で、不安定な国際情勢や円安による物価上昇、原材料・エネルギー価格の高騰等により、依然として先行き不透明な状況が続いております。

ホテル業界におきましては、インバウンド需要の増加や社会経済活動の正常化などによる人流の回復により、消費動向には持ち直しの動きが見られるものの、原材料費・光熱費をはじめとした各種コストの上昇により、引き続き厳しい事業環境下に置かれております。

こうした環境下、当社グループは2024年5月に、私どもが日頃から最も大切にし、また今後も揺るがすことのない価値観、存在意義をパーパス「人を、地域を、日本を、世界を、あたたかい心で満たしていこう。」として明確化し、公表いたしました。あわせて、ホテル開業100周年を迎える2035年に目指す姿として「RIHGA VISION 2035」を策定するとともに、2024年から始まる中期3カ年計画「中期経営計画2026『ReRISE』」を策定いたしました。この3カ年を「ブランドの再構築と新たな成長に向けた基盤強靱化の期間」と位置づけ、「ホテルブランドカテゴリーの再編成・新規展開」「ホテル事業のバリューアップ」「新規出店パイプラインの拡大」を基本戦略として掲げ、各種取組みを推進しております。

「ホテルブランドカテゴリーの再編成・新規展開」につきましては、当社の強みを活かしながら多様化するニーズに応え、将来の開発に幅広く対応できるよう、ホテルのグレードとスタイル別にカテゴリーを再整理するとともに、ブランドのバリエーションを増やしました。また現行ブランドではカバーできていなかったターゲット層へ積極的にアプローチするため、街の魅力を際立たせた個性あふれるホテルを展開する「Xカテゴリー」を新設いたしました。

「ホテル事業のバリューアップ」の一環として、リーガロイヤルホテル(大阪)ではブランド価値向上を図るため、「伝統美と水の融合」をコンセプトとした客室のリニューアルや、外壁のリノベーション工事を順次行いました。

また、人的資本の強化を目的とした人事運営の改革の一環として、全社員を対象としたベースアップを行い、処遇の改善を実施いたしました。さらに調理部門の若手社員に対する育成制度を充実させました。これにより、調理専門学校卒業生だけではなく普通科高校卒業生も採用の対象に加えることで採用の幅を広げ、ブランドを支える調理人材の確保と育成に注力いたしました。

9月には2025年日本国際博覧会の迎賓館運営業務を受託することを発表いたしました。国内外の賓客との国際交流の場として設置された迎賓館における賓客への接遇・飲食の提供等を行います。これまでの賓客接遇や数々の国際会議を通じて培ってきた運営力、食へのこだわり、そしてあたたかい心から生まれるおもてなしにより、大阪・関西万博の成功の一助となるよう努めてまいります。

「新規出店パイプラインの拡大」に関しましては、2026年春開業予定の「リーガロイヤルリゾート沖縄 北谷」に続き、同年春頃に大阪なんば、同年秋頃に福岡博多、また2027年秋頃に広島平和大通りと、新たに3軒のホテル開業計画を発表いたしました。今後も事業成長戦略の柱の一つとして、効率的・効果的な新規出店に注力してまいります。

このように、今後の増収施策を進めながら足元の需要回復に対応し、収益の拡大に注力した結果、当中間連結会計期間の売上高は、10,073百万円と前年同期比637百万円(6.8%)の増収となりました。

損益面では、経費の増加が影響し、営業損失339百万円(前年同期は営業損失35百万円)、経常損失308百万円(前年同期は経常損失7百万円)となり、親会社株主に帰属する中間純損失は473百万円(前年同期は親会社株主に帰属する中間純損失80百万円)となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当中間連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ347百万円減少し31,220百万円となりました。内訳では流動資産が同624百万円減少し15,839百万円となりました。これは未収入金が525百万円減少したこと等によります。固定資産は同277百万円増加し15,380百万円となりました。これは差入保証金が179百万円増加したこと等によります。

当中間連結会計期間末の負債合計は、前連結会計年度末に比べ248百万円増加し11,939百万円となりました。これは預り金が327百万円増加したこと等によります。

当中間連結会計期間末の純資産は、前連結会計年度末に比べ595百万円減少し19,281百万円となりました。これは親会社株主に帰属する中間純損失の計上等によります。これにより自己資本比率は、前連結会計年度末の63.0%から61.8%になりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

2025年3月期の業績につきましては、2024年5月13日の決算発表時点と変更はありません。なお、実際の業績は今後の様々な要因によって予想数値と異なる可能性があります。

2. 中間連結財務諸表及び主な注記

(1) 中間連結貸借対照表

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	12,337	12,508
売掛金	1,731	1,302
原材料及び貯蔵品	336	335
その他	2,060	1,694
貸倒引当金	△2	△1
流動資産合計	16,464	15,839
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物	6,190	6,198
減価償却累計額	△5,773	△5,797
建物及び構築物(純額)	416	400
リース資産	361	385
減価償却累計額	△305	△176
リース資産(純額)	55	209
その他	1,904	1,930
減価償却累計額	△1,411	△1,446
その他(純額)	493	483
有形固定資産合計	965	1,094
無形固定資産		
ソフトウェア	204	177
その他	3	3
無形固定資産合計	207	181
投資その他の資産		
匿名組合出資金	1,466	1,466
差入保証金	11,934	12,113
繰延税金資産	366	308
その他	172	225
貸倒引当金	△9	△7
投資その他の資産合計	13,929	14,105
固定資産合計	15,103	15,380
資産合計	31,568	31,220

(単位:百万円)

	前連結会計年度 (2024年3月31日)	当中間連結会計期間 (2024年9月30日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	437	401
契約負債	637	635
賞与引当金	420	438
役員賞与引当金	38	-
その他	2,722	2,893
流動負債合計	4,257	4,368
固定負債		
退職給付に係る負債	5,082	5,018
長期預り金	2,301	2,308
その他	49	242
固定負債合計	7,433	7,570
負債合計	11,690	11,939
純資産の部		
株主資本		
資本金	100	100
資本剰余金	10,342	10,342
利益剰余金	9,492	8,886
自己株式	△62	△62
株主資本合計	19,873	19,266
その他の包括利益累計額		
退職給付に係る調整累計額	3	14
その他の包括利益累計額合計	3	14
純資産合計	19,877	19,281
負債純資産合計	31,568	31,220

(2) 中間連結損益計算書及び中間連結包括利益計算書

中間連結損益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
売上高	9,435	10,073
売上原価	1,423	1,605
売上総利益	8,012	8,467
販売費及び一般管理費		
水道光熱費	706	693
人件費	3,418	3,748
諸経費	3,924	4,365
販売費及び一般管理費合計	8,048	8,807
営業損失(△)	△35	△339
営業外収益		
受取利息	0	1
受取配当金	3	0
ポイント失効益	25	13
違約金収入	-	7
その他	9	9
営業外収益合計	39	31
営業外費用		
匿名組合投資損失	7	-
その他	5	0
営業外費用合計	12	0
経常損失(△)	△7	△308
特別損失		
固定資産除却損	29	3
減損損失	42	96
特別損失合計	72	100
税金等調整前中間純損失(△)	△80	△408
法人税、住民税及び事業税	6	6
法人税等調整額	△5	58
法人税等合計	0	64
中間純損失(△)	△80	△473
親会社株主に帰属する中間純損失(△)	△80	△473

中間連結包括利益計算書

(単位:百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
中間純損失(△)	△80	△473
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	21	-
退職給付に係る調整額	4	10
その他の包括利益合計	26	10
中間包括利益	△53	△462
(内訳)		
親会社株主に係る中間包括利益	△53	△462

(3) 中間連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等の注記)

【セグメント情報】

I 前中間連結会計期間(自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)

当社グループは、内外顧客の宿泊・料理飲食・貸席等を中心とするホテル経営及びホテル附帯業務を事業内容としております。商品やサービスの内容、商品の販売方法、サービスの提供方法、販売市場が類似しており、経営資源の配分の決定及び業績評価は当社グループ全体で行っていること等から判断して、事業セグメントが単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

II 当中間連結会計期間(自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)

当社グループは、内外顧客の宿泊・料理飲食・貸席等を中心とするホテル経営及びホテル附帯業務を事業内容としております。商品やサービスの内容、商品の販売方法、サービスの提供方法、販売市場が類似しており、経営資源の配分の決定及び業績評価は当社グループ全体で行っていること等から判断して、事業セグメントが単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(収益認識関係)

顧客との契約から生じる収益を分解した情報は、以下のとおりであります。

(単位：百万円)

	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)	当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)
客室	3,489	3,842
宴会	2,089	2,298
食堂	1,345	1,478
その他	2,384	2,332
顧客との契約から生じる収益	9,309	9,952
その他の収益	126	120
外部顧客への売上高	9,435	10,073

(注) 「その他の収益」は、リース取引に関する会計基準に基づく不動産賃貸収入等であります。

(重要な後発事象)

(株式会社芝パークホテルとの資本業務提携契約締結について)

当社は、2024年11月11日開催の取締役会において、株式会社芝パークホテルの株式を取得し子会社化すること、及び同社との間で資本業務提携契約を締結することを決議し、同日付で資本業務提携契約を締結いたしました。

なお、詳細につきましては、2024年11月11日に公表いたしました「株式会社芝パークホテルとの資本業務提携契約締結および子会社化に関するお知らせ」をご参照ください。

3. その他

連結 部門別売上

(単位 金額：百万円、構成比：%、増減比：%)

部 門	前中間連結会計期間 (自 2023年4月1日 至 2023年9月30日)		当中間連結会計期間 (自 2024年4月1日 至 2024年9月30日)		比 較	
	金 額	構成比	金 額	構成比	増減	増減比
客 室	3,489	37.0	3,842	38.1	352	10.1
宴 会	2,089	22.1	2,298	22.8	209	10.0
食 堂	1,345	14.3	1,478	14.7	133	9.9
そ の 他	2,511	26.6	2,453	24.4	△57	△2.3
合 計	9,435	100.0	10,073	100.0	637	6.8

(注) 受注生産は行っておりません。